

山川治雄氏の慰霊と行仙宿の点検

◇実施日 8月25日(日) 晴

◇参加者 沖崎吉信、児嶋道夫、畑林秀味、松本吉殖、大江加予子、濱野兼吉、湯川一郎、坂口雄二、上村洋司、西克、山川自知、梶野照雄、志岐敬、村吉光夫、榊本真仁、杉本和己

16名

8月11日の川島前代表の慰霊に続き、本日は山川さんの慰霊に出向く。自知君を含め16名の皆さんの参加となった。

大阪、奈良から梶野、村吉、志岐、榊本の4氏も遠路参加いただいた。また、山川さんと旧知の間柄である熊野市の杉本和己二からも、参加したいとのメールをいただいた。

台風10号が接近中だが、進行方向も定まらず、ゆつくりと迷走している。そのため天気予報は今日を含めて雨が続けている。雨天決行としていたが、土砂降りならどうするかと心配していた。

児嶋さんは玉置辻の林道入り口にある石仏に祠を設置すると準備を済ませていたが、基礎にセメントを使うので雨が降ると工事ができないと延期された。

午前9時30分少し前に新宮組が玉置辻に到着すると、皆さんはすでに到着されていた。初対面の杉本さんに挨拶をし、参加のお礼と、今日は事故現場で慰霊の後、玉置神社、奥駈道経由で玉置辻に戻る旨をお伝えして出発する。



玉置辻に集合



お供えを並べる



勤行

林道を歩き鉄階段を登って、30分ほどで現場に着いた。今日唯一の女性参加者、大江加予予さんがお供えや線香、ローソクなどを準備してくださいました。



本日の参加者



社務所は工事中



本殿横の工事

皆さんから、ビール、チューハイ、ミカンなどのお供えがあり、持参した供台はいっぱいになった。名々に線香をあげていただき、沖崎、阪口の導師で般若心経などを唱えさせてもらった。

読経後、沖崎より山川さんの思い出などを紹介して慰霊を終えた。

玉置神社まで登り、奥駈道を玉置辻まで戻った。玉置神社は社務所の工事が始まっており、従来通行できた社務所前は塀が建てられて通行できないようになっていた。志岐さんが水場を見に行つたが、蛇口から水は出るようだ。今日は日曜日で工事がなため入ることができたが、工事が行われていると水場に入るとは難しそうだ。



奥駈道を下る

杖立を設置する

玉置辻の石仏

玉置辻に戻って、山川さんの遺作である杖40本を見嶋さん製作の杖立に入れ鳥居のそばに設置した。この杖は山川さんが亡くなった後、自知君から杖がいっぱいあるが、どうしたものか?と相談があつて、自山口において皆さんに使つていただくこうとお預かりしていたものだ。100本位あるかな、と思つていただきに訪れたが、驚くほど数が多く4

00本を越えていた。8人乗りのデリカに苦勞して積み込んだ思い出のある品だ。

杖立の設置が終わり本日の行事も無事終了した。事故現場を訪れてご冥福をお祈りするとともに、二度とこのような事故を起こさないことを誓う日でもある。

(記；沖崎)

行動タイム

玉置辻09:37↓10:08慰霊現場10:32↓11:12玉置神社11:28↓11:58玉置辻

行仙宿の点検など

山川さんの慰霊を終え、志岐さんと二人で行仙宿に向かった。R425経由で登山口まで70分だった。



白谷トンネルの工事案内

プラ板を降ろす

行仙宿は25℃

白谷トンネルは補修工事が9月から来年の11月まで続くらしい。通行には注意が必要だ。

登山口に着きモノレールで登る。荷台には湯川君が残してくれたプラスチック板が積んであった。終点の小屋にプラスチック板を降ろして小屋に向かう。小屋の雨戸はしっかり閉まっていた。小屋内外を点検、倉庫から8mmと12mmの鉄筋を出して、鉄筋を持つて小屋を離れた。鉄筋は途中の岩に打ち込んで橋台のアンカーとして使う予定だ。



鉄筋を降ろす

ここに橋を架ける

雲が増えてきた

ここは道幅が狭く、山側に広く岩が続いているので、削ったの拡幅が困難と思われるので橋を架ける方向で対処したい。鉄筋を現場において下山。雲は増えてきたが最後まで雨は降らなかった。五條まで帰ってくると雨が降り出し、橋本では雷雨になったが、帰宅すると一滴も降っていないかった。
(記：梶野)

行動タイム

13:50 補給路登山口→14:10モノレール終点→14:26行仙宿 14:38

→14:46モノレール終点→15:02補給路登山口